

議論の柱と論点例

〔議論の柱〕

【メディアリテラシーの育成】

- ◎ 主権者として現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察を深めるには、各種の統計、白書、新聞やインターネットの情報など豊富な資料や多様なメディアを活用し、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、解釈する力が求められる。その際、情報の妥当性や信頼性を踏まえた公正な判断力を身に付けることは重要となってくるが、こうしたメディアリテラシーを育成するには、どのような工夫や留意すべき点が考えられるか。

〔論点例〕

(日常的に多様なメディアに触れる環境づくりについて)

- 主権者教育の第一歩は、社会への関心を持つことにある。子供たちが日常的に現実社会の諸課題に関心を持つことができるよう、学校、家庭などの様々な場面で、多様なメディアが発信する情報に触れて考える機会を充実することが重要である。その際、どのような工夫や留意すべき点が考えられるか。

《これまでの主な意見》

- ・ 最終的に自分の意見を持つことが主権者教育では重要。社会への関心を持つことが、そのための第一歩である。
- ・ 子供の頃から、自分たちが社会を作っていくという当事者意識を持つことが重要。そのために様々な社会の問題点分かるようなニュースについて情報を収集し、多角的な視点から考えていくことは重要。
- ・ 多くの授業時間を割かなくても、朝の 10 分、15 分を使って、社会で起きている事柄について子供たち同士で対話をする時間をつくるなど、社会に関する学びを深めることができるのではないか。
- ・ 学校での取組だけでなく、新聞というメディアを媒介させることにより、家庭において、争点のある課題について、最も身近な親子間で話し合ったり意見交換したりするなど、家庭における NIE にもっと力を入れていただきたい。
- ・ 家庭との連携事例として、新聞を用いたコンクールに取り組んでいる。新聞記事を読んで感想を書き、記事の内容について家族や友人と話し合い、意見を聞いて書き、話し合いを通

じて自らの意見がどう変わったか、変わらなかったを書く、記事作文、コンクールに取り組んでいる。毎年優秀な作品が応募されてくるが、審査過程で感じるのは、家庭で親子で話し合うことで、同世代で話し合うよりも意見の広がりや深まりがみられる。

- ・ 日常の中で、社会的な問題に気付き、課題を見出し、自分の意見を持つていくことが重要。また、それを友達や家族と話をすることで、違う意見も受け止めながら、更に自分の考えを磨いていく、そうした作業を続けていくことが投票、一票の大切さにもつながっていくのではないかな。

(メディアの特性に応じた情報の収集について)

- 新聞やテレビ、ネット記事やSNSなどのインターネットの情報など、多様なメディアの特性に応じて、適切かつ効果的に必要な情報を収集することが期待される。その際、どのような工夫や留意すべき点が考えられるか。

《これまでの主な意見》

- ・ 紙のニュース、デジタルのニュース双方にメリット・デメリットがあり、デジタルニュースについても、紙のものと比べるなどして教育していくことが必要ではないか。テレビでは芸能もスポーツも政治もパラレルに出てくるので、自分で教育欄や文化面を選んで読むのとは異なるが、トータルでニュース媒体をどう使うかということを考える必要がある。
- ・ 世の中には様々なメディアがあるが、新聞のメリットは信頼性の高さや一覧性の高さである。
- ・ 新聞を読み比べる際に、万遍なく全紙を見るのではなく、典型的な2つを比べることで問題の本質に迫ることは十分できるのではないかな。
- ・ 新聞を読み比べるということも大事だが、記者がどのように記事にまとめているかという視点も役に立つと思う。
- ・ ネットメディアなどに対する色々なリテラシー能力を付けると同時に、活字メディアに対するリテラシー能力の努力も放棄すべきではないと考える。新聞も偏っていることを前提に教材として使えば、リテラシー能力が育めると考える。
- ・ 若者がどういうところから情報を得ているのか、を知っておく必要がある。新聞を取っていない家庭が増えてきており、ネットを通して情報を得ることが進んでいる中で、主権者教育についても、若い主権者がどのように情報を得て自己の意見を形成していくのかという点にも注目したい。
- ・ 大人、子供を問わずネットで情報を収集しネットで発信するということが強くなってきているため、もう少しネットを意識した情報の取扱いについて、明確に打ち出すべきでは

ないか。

- ・ 非常に膨大な情報の中から個人が何を選ぶのかが問題。デジタル化されたメディアをプラスに使っていくことが大切であり、デジタル化の視点は今後の主権者教育の中でも取り扱うべきと考える。
- ・ ネットメディアは、見出しからそのニュースを選ぶと、次からは、それに関連するニュースばかりが表示されるようになるなど、自分が選んでいるようであり、実は偏りのある情報にしか接しないような仕組みになっていることがある。そういったことに気を付けながら、ネットメディアを前提にしてリテラシーを高めていく必要がある。
- ・ SNS やインターネットは自分に都合のいい意見だけを見がちで、自分と異なる意見と向き合わなくなることが欠点。それが悪い意味でのポピュリスト的な動きにもつながっていくので、こうした環境下での主権者教育の在り方について検討すべきではないか。
- ・ 主権者教育を進める上で分かりやすさも大事。例えば、映画や動画といったものをうまく使うということも生徒、学生の動機づけということに向けて考えるべき。その際、オンライン教育の功罪を見極めながら位置づけを考えることも必要。
- ・ 主権者教育を進める上でのツールとして、新聞だけでなく、SNS をどう活用していくのかも考えていかなければいけない。

(収集した情報をもとに自分なりの意見をもつことについて)

- 主権者として現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察を深めるには、収集した情報の妥当性や信頼性を踏まえて公正に判断し自分なりの意見を持つこと、自分たちが社会を作っていくという当事者意識を持つことが期待される。その際、どのような工夫や留意すべき点が考えられるか。

《これまでの主な意見》

- ・ 様々な情報源がある中で、情報を選択していく力を大人も含めて子供たちにもどうつけていくかということが一つの肝なのではないか。
- ・ 情報が氾濫しているような状態の中で、どの情報を捉えていくのかとか、自分の判断で捉える力というのが、ある意味では有権者の主権者としての素地ではないか。
- ・ 膨大な量の情報が流れ込んでくる中で、いかに情報リテラシーを磨き、フェイクニュースのような情報に踊らされないようにしていくかが重要。
- ・ 子供の頃から、自分たちが社会を作っていくという当事者意識を持つことが重要。そのために様々な社会の問題点が見えるようなニュースについて情報を収集し、多角的な視点から考えていくことは重要。※再掲

- 日常の中で、社会的な問題に気付き、課題を見出し、自分の意見を持つていくことが重要。また、それを友達や家族と話をすることで、違う意見も受け止めながら、更に自分の考えを磨いていく、そうした作業を続けていくことが投票、一票の大切さにもつながっていくのではないかと。 ※再掲